

伊東市長期ビジョン

せ だ い こ き ず
世代を超えて築く

ゆ め え が
こどもが夢を描けるまち



はじめに

～伊東市の未来に向けて～

伊東市では、2047年に迎える市制施行100周年を視野に入れ、長期的な視点から市のビジョンを描くためのプロジェクトを立ち上げました。この冊子は、庁内各部門の若手職員によるそのプロジェクトチームで、100周年時点の伊東市のあるべき姿と、その実現に向けての取組の方向性などについて検討を進めた結果をとりまとめたものです。検討の過程では、伊東市政策参与（総合政策）陳内裕樹氏のアドバイスをいただくとともに、市民代表による伊東市未来ビジョン会議のメンバーの方々とも意見交換をおこないました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

少子高齢化や地域産業の衰退、多発する自然災害への対応など、伊東市が抱える様々な課題を克服し、次世代のこどもたちが明るい未来に向けて自ら夢を描けるまちにしていくために、本ビジョンを指針として、市民の皆さまや地域の企業・団体の方々とともに歩みを進めていきます。

2025(令和7)年3月

伊東市長 小野 達也



目次

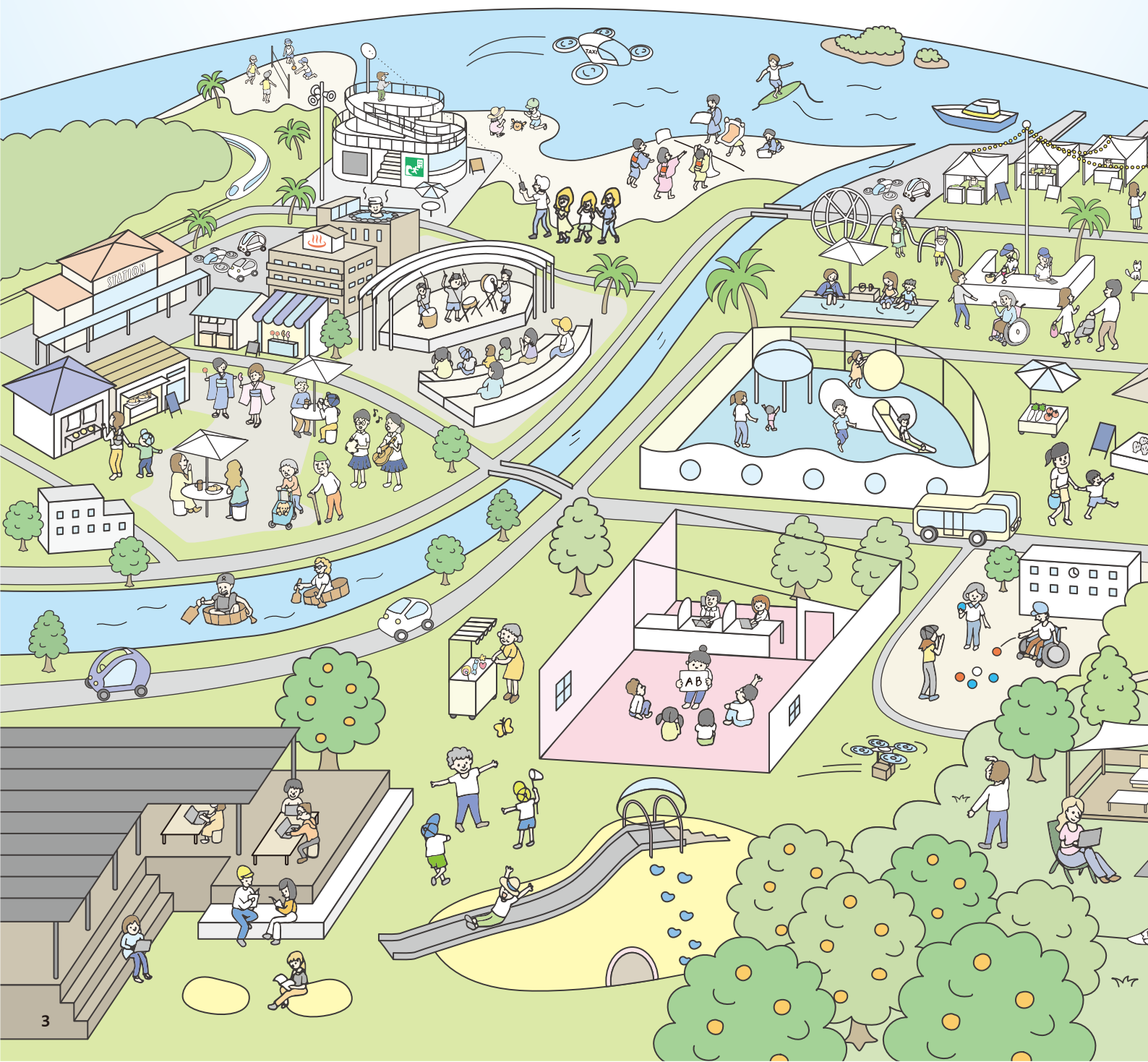
はじめに	1
めざす姿	3
めざす姿を実現するために	4
教育・子育て分野	5
医療福祉・くらし分野	7
都市・インフラ分野	9
観光・産業分野	11
ビジョン実現に向けて	13
スケジュール	14



めざす姿

伊東市は市制施行100周年を迎える2047年に向けて
今を生きる私たち現役世代が 未来を担う若い世代のために
暮らしやすい、住みやすい、子育てしやすい 環境づくりをめざします。

世代を超えて築く こどもが夢を描けるまち



めざす姿を実現するために

大事にする考え方 ▶▶▶

次世代のこどもたちが、それぞれの夢を描けるまちを築いていくためには、多方面にわたる地域の課題をみんなで克服するとともに、これまでに経験したことのない新しい活動にチャレンジしていくことも必要になります。

その歩みを着実に、無駄なく進めるため、3つの考え方(取組方針)に沿って具体的な取組内容や推進体制を検討していきます。

〈取組方針〉

「あれもこれも(総花)」型プランではなく、

「これだけは(選別)」型戦略をつくる!

少子高齢化が進み、かつての経済成長期のような税収増が見込めないこれからの時代を見据え、めざすまちの姿を実現するために効果的な分野、テーマを設定し、そこに資源を集中させて取り組んでいきます。

強み(なければ創る)を活かして、

伊東オンリーワンをめざす!

伊東市の「強み」を見極め、それを磨いていくことで、他にはない魅力をもったまちを創ります。今は見えない新たな「強み」を生み出したり、「ファーストワン」※となるような取組にもチャレンジします。

※ファーストワン:他の都市がどこもやっていない、新しい、革新的な取組を進め、具体的な成果をあげていくこと

市民や企業、地域で活動する団体と

力を合わせてまちづくりを推進する!

まちづくりは、行政だけではできません。市役所の中だけでなく、市民、企業、地域で様々な活動をしている団体の方々と、手を携え、持続的に取り組むことで、めざす方向に私たちのまちを近づけていきます。

まちづくりの進め方 ▶▶▶

- めざす姿の実現に向けて、まちづくりの方向を4つの分野に分けて整理して取り組んでいきます。また、各分野ごとに「重点的な取組」を定め、特に力を入れて推進していきます。
- めざす姿の実現のために、分野の垣根を超えて同じ方向を向いた取組が必要になることについては、「共通のテーマ」を設定し、各分野で方向性を共有しつつ、互いに連携しながら取組を進めていきます。

〈取組内容の組み立て〉



重点的な取組

分野共通のテーマ		教育・子育て分野	医療福祉・くらし分野	都市・インフラ分野	観光・産業分野
 子育てしやすいまちを創る	→				
 暮らしやすい住みやすいまちを創る	→				
分野独自の取組	→				

個性に寄り添い こどもの可能性を拓けます



《重点的な取組》

個性、多様性重視の いとう型教育モデルを追求します

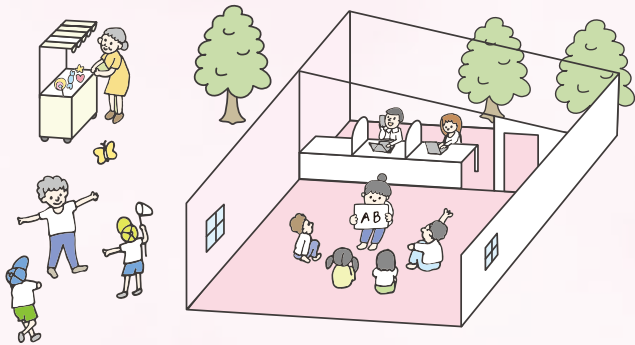
- こどもの特性や家庭の事情などに柔軟に対応しながら、それぞれの個性が輝き、持っている可能性を拓けることのできる教育の仕組みや場の整備に取り組めます。
- 伊東の資源を活かした自然環境教育など、本市の特性を活かした、他ではできない教育プログラムを開発、実践し、市内のこどもたちの感性を拓け、郷土愛を育みます。
- 伊東でのゼミ合宿などを通じて教育系大学との関係をつくり、先進的な教育モデルの実践の場として伊東市の取組との連携を図ります。将来的には、大学のサテライト・キャンパスなどの誘致も視野に入れます。



地域ぐるみで 子育てを支援する体制を 充実させます



- 地域と市が協働し、こどもを望む人たち、授かった人たちから、乳幼児期・学童期・青年期までの子育てをまちぐるみで支援する環境や仕組みを整備していきます。
- 子育て終了後のシニア世代の経験や知見を活かせる仕組みを取り入れることで、高齢者の社会参加やいきがいづくりにもつなげていきます。



教育移住を促進します



- 取組内容を効果的に情報発信することで、「こどもの可能性を拡げることのできるまち」として、本市の知名度、都市イメージの向上を図ります。
- 移住・定住施策と連動し、外部からの教育移住（伊東でこどもを育てるために家族が移住をすること）を促進します。



誰もが健康で、
心地よく暮らせる地域を創ります

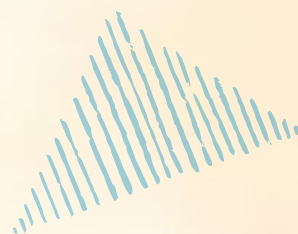


《重点的な取組》

こどもの医療・健康づくりに
注力します

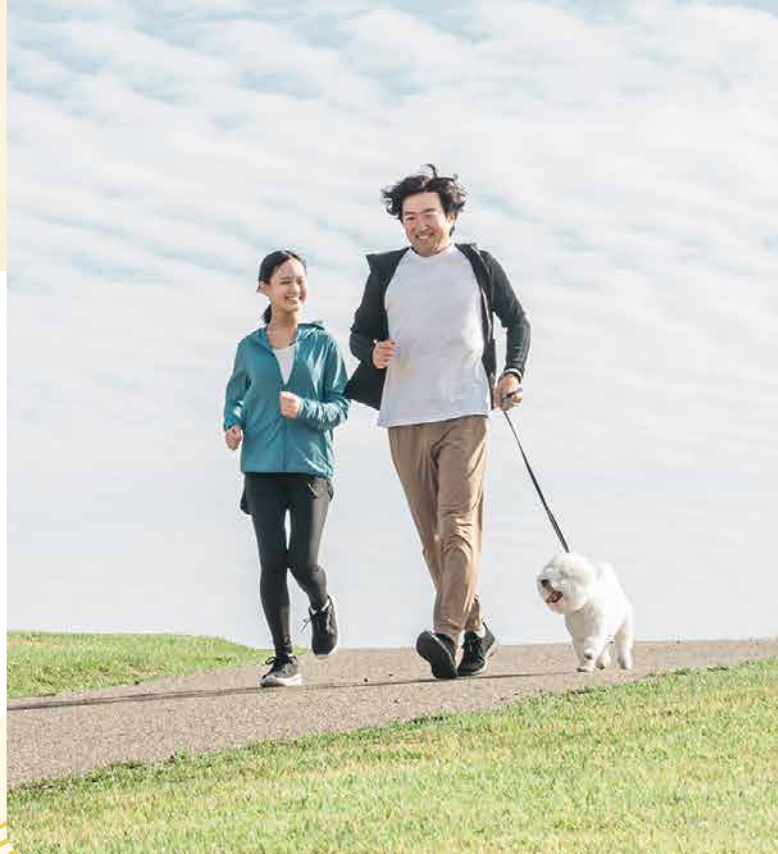


- 幼少期からの健康づくり（運動、食事、睡眠）を重視した取組を推進し、生涯を通じて健康でいられる生活習慣を身につけた市民を増やします。
- こどもが安心して病院にかかれるよう、小児救急医療体制の整備など、こども医療の充実化を図ります。



「健康になるまちづくり」を 推進します

- 豊かな自然に囲まれた環境を活かした“思わず”歩きたくなる・出かけたくなる・体を動かしたくなる仕掛けづくりや、市内店舗や飲食店による減塩商品の推奨などの取組を行い、暮らしけんえんているだけで、健康になれるまちづくりを進めます。
- 医療・介護・福祉・健康施設と市や関連する民間事業者が力を合わせて進めます。
- 温泉資源を活かした健康づくりを推進します。



多様性を認め合い、つながり、 支え合う風土を育みます



- 自然環境に恵まれた伊東で、温かく、優しい人たちが互いの違いを認め合い、支え合って、健康でいきいきと暮らせる「いとうくらし」を実現するための取組を推進します。
- 幼少期からのコミュニティ教育や、多世代の交流、人がゆるやかにつながる仕組みづくり、地域コミュニティ活動の支援などによって、主体的、自発的に活動するポジティブ（前向き）な市民、地域社会に貢献する人きほんに感謝する文化など、「いとうくらし」を支える生活基盤や土壌を育てていきます。



次世代のために 安全で快適なまちを整備します

《重点的な取組》

子育て世代のための 環境整備を進めます

- 家族がそろって楽しめる身近な場所や機会の整備（例えば商業施設に併設した外遊び公園や屋内型プレイパーク、イベントなど）を進め、子育て世代のまちに対する満足度を高め、定住を促進します。
- 中心市街地で、子育て世代や若い世代にとって魅力のある「歩いて楽しいマチナカづくり」を推進し、観光誘客につなげるとともに、新たなにぎわいを創出します。

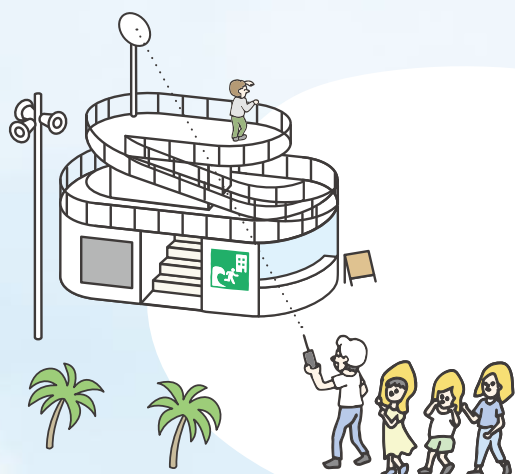


次世代のために 都市機能を再編成します



- 施設の老朽化^{ろうきゅうか}、若い世代のニーズとの乖離などの課題に対応し、新規施設の整備も含めて公共文化施設の再編成を進めます。
- ウォーターフロント開発^{ウォーターフロント開発}※など、若い世代の誇りとなるシンボルゾーン開発を推進します。
- 伊豆縦貫自動車道^{いずじゅうかんじどうしゃどう}など周辺の広域道路交通網の整備に合わせ、「次世代への贈り物」という将来視点から、広域アクセスの利便性を高める新たな道路整備や持続可能な公共交通体系の再編成に取り組みます。
- 新たな都市機能の整備にあたっては、官民パートナーシップによる効果的な事業手法を導入します。

※ ウォーターフロント開発：海や川、湖などの水辺空間を整備して、まちのゆとりやうおいを高め、にぎわいを生み出すこと。



災害にしなやかに対応できる まちを創ります

- 大きな自然災害が多発するなかで、デジタル技術の活用などによって、緊急情報をより迅速・詳細に取得し、効果的に伝達するとともに、市民や観光客にとって分かりやすい避難計画などの災害対策を強化して、安全に、安心して暮らせるまちづくりを推進します。

観光・産業分野

「それぞれの働き方」を 受け入れる産業を興します



《重点的な取組》

若い世代の移住・定住に つながる観光を推進します



- 市民が地元の観光を体験する機会を拡充し、伊東の観光魅力を発信、推奨する市民を増やします。
- 伊東を訪れる観光客に伊東で暮らす魅力を効果的に伝え、伊東のファンづくりや移住を促進します。
- 漁業・農業体験の旅行商品化や受入れ体制の整備によって体験型ツーリズムを振興し、1次産業の就業志望者の移住や事業継承につなげます。



複業^{※1}促進などによって、 雇用の柔軟性を高めます

- 市民や首都圏住民の複業^{ふくぎょう}などの多様な働き方のニーズに対応した雇用の受入れ体制の整備によって、人材不足を緩和^{かんわ}し、観光業をはじめとする地場企業の活性化につなげます。
- 専業主婦が就業^{しゅうぎょう}するための後押し制度（リカレント教育^{ふくぎょう}※2など）、複業ベンチャー、小規模ビジネスの起業支援制度などによって、雇用の拡大と新産業の創出を図ります。

※1 複業（ふくぎょう）：一人の人が複数の仕事に就業すること

※2 リカレント教育：学校教育から離れたあとも、それぞれのタイミングで学び直し、仕事や社会で求められる能力を磨き続けていくための社会人の学びのこと



グローバルなビジネスと学びの 拠点をめざします

- 首都圏に比較的近く、豊かな自然を有する伊東市の強みを活かし、テレワーク^{※3}しやすい環境の整備などによって、デジタルノマド^{※4}などの国際ビジネス人材の受入れを図ります。
- 伊東を拠点とする国際ビジネス人材のネットワークやノウハウを活かして、インターナショナルスクール^{※5}、次世代アントレプレナー（起業家）育成機関（デジタル新時代の高専、ビジネススクール）などを誘致し、グローバルビジネス^{※6}の拠点化をめざします。



※3 テレワーク：情報通信技術（ICT）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方

※4 デジタルノマド：国や地域の場所を問わず、旅をしながらリモートで仕事をする人々のこと

※5 インターナショナルスクール：海外からも学生を受入れ、国際的な視野で人材育成を行う教育機関

※6 グローバルビジネス：国や地域の枠を超えた、国際的な視野を持った企業活動、事業

ビジョン実現に向けて

「^{せだい}世代を超えて^こ築く ^{きず}こどもが^{ゆめ}夢を描ける^{えが}まち」を旗印としてこのビジョンを実現していくためには、市民、企業・団体のみなさんと行政(市役所)の関係部署が、まちのめざす姿を共有し、手を携えながら、ひとつひとつ地域が抱える課題を乗り越えていく必要があります。

そこでは、次のような役割がそれぞれに期待されます。



市民

市民一人ひとりが「自分のこと」として「次世代のために何をすべきか」を考え、小さな行動を積み重ねることで、めざす姿の実現につながり、「暮らしやすい、住みやすい、子育てしやすいまち」を次世代に引き継ぐことができます。



企業・団体

地域の企業や団体は、単に経済活動を行うだけでなく、地域の活性化や住みやすいまちづくりの重要な担い手です。市民や行政(市役所)と協力しながら、それぞれの活動を通じて地域の課題解決や持続可能なまちづくりに貢献する重要な役割が期待されます。



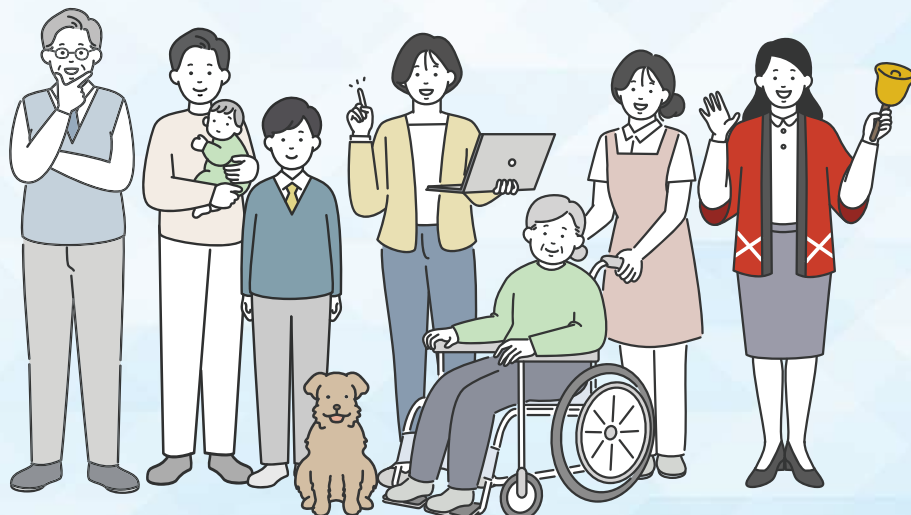
市外の伊東ファン(関係人口)

市外に住みながらも、伊東のまちに愛着を持ち、応援してくれる「関係人口」と呼ばれる人々もまちづくりに貢献する重要な存在です。情報発信、地場製品の購入やふるさと納税、イベントや地域の活動への参画など、多様な関わり方が可能です。このような人々を増やし、継続的な関係^{きず}を築くことが、めざす姿の実現につながります。



行政(市役所)

市民一人ひとりの価値観が多様になり、生活の中で求めるものが高度になる一方で、地域が抱える課題はより複雑になってきています。そうした背景のもと、次世代のためのまちづくりを進めるために、市民が主体的に動ける環境を整え、市民と行政(市役所)が協働してまちづくりを進めていく必要があります。そこでは、行政(市役所)は、まちづくりの「主体」ではなく、住民や地域の活動を「支える役割」を果たすことが重要になります。



スケジュール

検討段階

計画段階

具体化・実施段階

教育・子育て分野

2027

2037

2047



個性、多様性重視の
いとう型教育モデルを追求します



地域ぐるみで子育てを支援する
体制を充実させます



教育移住を促進します

医療福祉・くらし分野



こどもの医療・健康づくりに
注力します



「健康になるまちづくり」を
推進します



多様性を認め合い、つながり、
支え合う風土を育みます

都市・インフラ分野



子育て世代のための
環境整備を進めます



次世代のために
都市機能を再編成します



災害にしなやかに対応できる
まちを創ります

観光・産業分野



若い世代の移住・定住につながる
観光を推進します



複業促進などによって、
雇用の柔軟性を高めます



グローバルなビジネスと学びの
拠点をめざします



伊東市

伊東市長期ビジョン

2025(令和7)年3月発行(第1版)

伊東市企画部企画課